

みどり 緑のかけはし

<第7号>

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部・
農学研究科
国際交流委員会
No.7 March.2007

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)

平成18年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

中国海洋大学大学院で招待講演

◇7月11日～16日◇

複合生態フィールド教育研究センター

沿岸生物生産システム学分野 教授 木島明博、助教 菅野愛美

平成18年7月11日から同16日までの6日間、本学と学術交流協定を締結している中国海洋大学を訪問した。今回の訪問目的は、中国海洋大学水産学院の大学院生を対象とした招待講演「日本におけるアワビ類の遺伝育種学的研究（木島明博）」と「マナマコの色彩変異に関する遺伝育種学的研究（菅野愛美）」を実施すること、中国海洋大学水産学院の李琪教授をはじめとする海洋生物の遺伝育種学的研究を行っている研究者との意見交換及び共同研究の模索を行うことである。招待講演ではマナマコの色彩変異や集団構造に関する質問が盛んに出され、中国における遺伝育種学的研究の注目度の高さを知らされた。

今回の訪問は、本学及び本学農学研究科との国際交流の一環として行われたものであるため、招待講演に先立ち、中国海洋大学の董副学長を表敬訪問し、農学研究科の日本酒「菘丸」を贈呈した。東北大学の日本酒の贈呈には董副学長も興味深く、大いに喜ばれ、董副学長主催の夕食会において試飲されるほどであった。

また、今回の訪問に際して、沿岸生物生産システム学分野の大学院博士後期課程留学生（中国海洋大学出身）1名、前期課程大学院生2名、4年生1名が同行し、連日、学生間交流が盛んに行われ、相互の情報交換がなされたようである。その成果として、送別パーティーが海岸沿いのレストランで開催され、さらに懇親を深めたようである。



中国海洋大学で講演後の交流夕食会。
東北大学の酒「菘丸」を贈呈

◇ 10月27日～30日 ◇

複合生態フィールド教育研究センター
沿岸生物生産システム学分野 教授 木島明博

平成18年10月27日から同30日までの4日間、本学と学术交流協定を締結している中国海洋大学訪問した。今回の訪問目的は、中国海洋大学水産学院の李琪教授との共同研究「日本及び中国におけるカキ類の遺伝育種に関する研究」の一環として、中国山東省で養殖されているマガキ、およびマガキ養殖場沿岸域に生息するシワガキの遺伝的変異性、遺伝的分化に関する研究結果の討議、今後の実験計画の策定に関する討議を行うことである。



カキ類の実験用交雑種苗の確認 (山東省養殖場にて)

中国山東省青島滞在中に、山東省のカキ養殖場の視察、中国海洋大学水産学院附属として新設された海洋生物養殖研究施設の視察など多くの視察も行うことができ、日本と中国における養殖の考え方の違いを学んだ。また、それによって中国海洋大学と東北大学が補完的に長期にわたる共同研究の継続的遂行が可能であることがわかる訪問であった。

今回の訪問は実質的共同研究の遂行であったが、中国海洋大学の董副学長をはじめとする多くの研究者との夕食会を通じた交流も行うことができた。

■ ウプサラ大学 (スウェーデン) 訪問記

複合生態フィールド教育研究センター
生物共生科学分野 准教授 陶山佳久

北欧最古の名門大学として有名なウプサラ大学を訪問したのは、これで4度目である。今回は「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)」による海外渡航という好機に恵まれ、平成18年11月から4ヶ月間にわたってウプサラ大学の進化生物学研究センターに滞在して研究に従事した。ウプサラ大学との交流は、4年前に花粉化石DNAの分析手法指導のために招聘されたのが契機である。それ以来、相互の訪問や共同研究を続けるなど、良好な関係を継続している。今回の訪問では厳しい北欧の冬の滞在ということになったが、ハイレベルな居住環境のもとで、研究・生活ともに極めて快適で、洗練されたシステムとデザインに囲まれて時を過ごすことに、一種の快感さえ覚



進化生物学研究センターの実験室で作業をする著者



ウプサラ大学進化生物学研究センター遠景

えたほどである。また今回は、スウェーデンの落ち着いた雰囲気の中で毎日研究に没頭できる幸せを、心の底からしみじみと感じ入ることとなった。特に、共同研究者との間が深い信頼関係によって結ばれているのが何よりも心地よく、この機会を得られたことの幸運に深く感謝している。もちろん私は、再びこのウプサラ大学を訪問することを計画している。この交流は、私の研究と人生においてかけがえのない大切なものの一つである。

■ スウェーデン農科大学獣医学部・ラキユラ大学（イタリア）との交流

動物生殖科学分野 教授 佐藤 英明

◇ スウェーデン農科大学獣医学部

2002年5月に動物生殖科学分野が中心となって学術交流協定を締結したが、2002、2003年に大学院学生をそれぞれ2名、2ヵ月間派遣した。また、2002、2003年に大学院学生をそれぞれ1名、1～2ヵ月間受け入れた。卵管上皮の精子結合サイトなどに関して共同実験を行い、派遣学生が筆頭著者として2編、受入学生が4編、2003～2006年に原著論文を発表した。また、教員計3名、技官計2名を受け入れ、セミナーや実習を行った。

◇ ラキユラ大学

2004年2月に動物生殖科学分野が中心となって学術交流協定を締結したが、2004年、2005年に大学院学生をそれぞれ1名、1及び3ヵ月間派遣した。また、2004、2005年にそれぞれ1名、3ヵ月間受け入れた。卵形成に関する共同研究を行い、2006年に2編の原著論文を発表した。また、2004～2006年にかけて教員を計3名受け入れ、セミナーを行った。

■ ガジャマダ大学（インドネシア）との交流

資源政策学分野 教授 米倉 ひとし

2006年12月16日、大学間協定を締結した（協定世話人：工学研究科 石坂公一教授、農学研究科 米倉 等）。ガジャマダ大学は1949年に設立された、インドネシアで最も古い大学で、文化遺産が数多く残る歴史的な都市、ジョグジャカルタに存在する。18の学部から成り、



ガジャマダ大学所有の茶農園と製茶工場



ガジャマダ大学と東北大学両学生の農村調査風景

学生総数 55,000 人、外国人学生 605 人、教員数 2,266 人、職員数 2,301 人を擁しているインドネシア最大の大学である。ガジャマダ大学との関係は、学振・拠点大学交流事業に日本側協力校の一つとして 1999 年度より参加したことによる。2006 年の農学研究科の交流実績としては、2 月 9 日～10 日、ガジャマダ大学農学部社会経済学科の Dr. Sulamet Hartono (準教授、拠点大学交流事業のガジャマダ大学側代表者) 及び Dr. Irham (準教授) 両氏が、農学研究科を訪問、研究科長を表敬訪問すると同時に資源政策学セミナーにコメンテーターとして参加した。あわせて今後の研究・教育交流について意見交換を行った。

揚州大学での短期留学を終えて

農学研究科応用生命科学専攻
機能形態学分野 博士課程後期 1 年 田中沙智

揚州大学動物科学技術学院と東北大学大学院農学研究科は、学術交流協定に基づいて大学院生の相互交流が行われており、これまでに 5 人の揚州大学の大学院生が東北大学農学研究科を訪れて、活発な交流がなされています。今回初めて、私を含む 2 名の東北大学の大学院生が、交換留学生として、昨年 12 月 25 日から 10 日間、揚州大学へ短期留学してきました。揚州大学の動物科学技術学院には 3 つの学科があり、約 80 名の大学院生が研究に励んでいます。揚州大学の大学院生から実験施設や研究に関する説明や細胞培養や生殖分野、遺伝育種などの研究が紹介されました。また、私たちの研究紹介など、研究・実験に関する意見交換ができました。滞在中、中国の文化遺産の見学として、揚州から北京へ移動し、万里の長城と天安門広場に行きました。建物の大きさと歴史の深さに感動し、中国の世界遺産を見ることができたことを、大変誇りに思いました。また、揚州大学の学生たちと共に生活することで、中国独自の考え方や文化・習慣を知ることができました。短い滞在期間ではありましたが、多くの貴重な体験ができ、大変有意義でした。そして、このような国際的な学生交流が、さらに発展することを希望しています。最後に、揚州大学の先生方ならびに学生さんには、大変お世話になりました。心から感謝しております。



揚州大学の動物科学技術学院先生方とのパーティー (左から、小笠原さん (本学博士課程 2 年)、李先生 (陳学部長夫人)、陳学部長、李先生、著者、趙先生)

農学部・農学研究科の学術交流協定校は以下の通りです (カッコ内は協定締結日)。

韓国	済洲大学校応用生命科学大学	(1984. 8. 7)	スウェーデン	スウェーデン農科大学農業・景観計画・園芸学部および獣医学部	(2002. 5.22)
ハンガリー	セント・イーストバン大学	(1990. 7. 2)	中国	上海水産大学	(2002.10.31)
タイ	カセサート大学理学部	(1993.12.24)	イタリア	ラキユラ大学実験医学部	(2004. 2. 9)
タイ	カセサート大学農学部	(1993.12.24)	中国	揚州大学動物科学技術学院	(2004.12. 9)
スペイン	ピゴ大学理学部	(1996.11.26)	中国	中国科学院上海有機化学研究所	(2005. 6. 7)
中国	中国海洋大学	(2001.12.25)	台湾	台湾台北医学大学公衆衛生栄養学院	(2006. 4.28)
タイ	カセサート大学水産学部	(2002. 2.24)			

留学生紹介

昨秋、新しく2名の方が留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

事項

- | | | | | | | | |
|-------|-------|---------|----------|----------|--------|----------|---------|
| 1. 国籍 | 2. 年齢 | 3. 在籍課程 | 4. 所属研究室 | 5. 研究テーマ | 6. 出身校 | 7. 趣味・特技 | 8. 自己紹介 |
|-------|-------|---------|----------|----------|--------|----------|---------|

(07.3.1 現在)

Li Hou
李 鋒

1. 中国
2. 27歳
3. 大学院博士後期課程
4. 植物遺伝育種学
5. ナタネの開花期の早晩生に関わる遺伝子の解明
6. 江西農業大学
7. スポーツ、音楽鑑賞
8. 私は李鋒と申します。2003年に江西農業大学大学院を卒業し、武漢の研究所で働きました。日本へは2006年10月に参りました。現在、植物遺伝育種学研究室に在籍しています。私は今の生活環境と研究環境に非常に満足しています。ぜひ、研究を頑張りながら、日本での留学生生活を楽しみたいです。皆さんどうぞ宜しくお願い致します。



アザド アブル カラム
Azad Md Abul Kalam

1. バングラデシュ
2. 32歳
3. 大学院博士後期課程
4. 動物栄養生化学
5. Studies on nutritional manipulation to improve meat production and quality of broiler chickens under acute and chronic heat stress
6. バングラデシュ農業大学
7. 読書、音楽鑑賞
8. はじめまして。アザドと申します。2006年10月にバングラデシュから仙台に参りました。現在、農学研究科の動物栄養生化学で勉強しています。指導教官は豊水先生です。私はクリケットが一番好きです。趣味は読書と音楽を聴くことです。



農学部附属施設見学の実施

12月1日・2日に留学生を対象として、川渡にある複合生態フィールド教育研究センター（フィールドサイエンスセンター）への見学旅行が実施されました。

以下は参加者の感想です。

さいばいしよくつかんまうがくぶん や だいがくいんはくし ぜん き かてい
栽培植物環境学分野 大学院博士前期課程

シャロン マリー ガリド
Sharon Marie Garrido

フィールドサイエンスセンターの見学はとても楽しかったです。私は既に2年間、川渡にあるこのフィールドサイエンスセンターで研究をしているのでよく知っている所なのですが、それでもこの見学旅行は印象深いものでした。同じ大学院で学ぶ留学生も参加していたことで、この旅行がより興味深く楽しく感じられたのです。他の留学生たちと言葉を交わして気持ちを分かち合い、互いについて知ることは有意義です。温泉に入ったり、鳴子峡や濁沼の見学、センターについての講義やセンター内の施設見学をし、全てが価値ある貴重な経験でした。

以前から農学研究科のフィールドサイエンスセンターはとてもすごい所だと聞いていました。日頃から、一度はフィールドサイエンスセンターで、一番新鮮な野菜を取って食べたいなあ〜！と思っていたところ、今回、国際交流支援室からのお誘いで実現出来たことをうれしく思っております。

見学の1日目は主に交流でした。一緒に来たメンバーの皆さん、学校のこと、趣味、将来の夢について…いろいろな話をしました。自分の思っていることがうまく伝わらずもどかしい気持ちになったりもしました。それでも、お互いの文化の違いを発見したり、同じように温泉が好きだったり、言葉が通じなくても分かりあえました。私は、「外国語で会話をするだけで異文化交流じゃない」と強く感じました。

そして、いよいよ見学旅行2日目、フィールドサイエンスセンター見学をすることになりました。三枝先生の説明を聞いたり、遺伝子組み換え圃場を見学したりしたものいい勉強になりました。この見学旅行では、日本での日常生活では知ることができないことが分かったり、体験できないことが体験できたり、いろいろなことを感じるようになりました。

ふと気が付けばもう別れの時。長いと思っていた見学がこんなに短く感じるなんて。初めて会ったばかりの友達や先生と別れるのが辛く、最後の最後まで手を振り続けました。

私は、見学旅行で何か大きなものを得たように思います。参加者皆さんとの思い出や経験したことを忘れないように、またそれを生かしながらこれから頑張っていこうと思います。

2006年12月1日午後4時頃、雨宮キャンパスを出発し、1日・2日と2日間にわたるフィールドサイエンスセンターへの旅が始まり、1時間半後センターに到着しました。

初日の夜は温泉を訪れたのですが、この初めての温泉体験は実に楽しいものでした。翌日はセンター内の各施設を見学し、たくさんの新しいことを学びました。

この2日間、日本食を大いに堪能し、地場産品を販売する店も見学することができました。

留学生の皆さんはぜひ、このような旅行に参加し、動物や飼料、肥料などについても新しい知識を得られると良いと思います。本当に良い体験ができました。

東北大学農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター訪問

国際交流委員長 三枝正彦

師走に入った12月1日・2日に雪空を気にしながら、仙台から約70km離れた温泉と観光の町、大崎市鳴子温泉にあるフィールドセンターを訪問した。留学生5名、教員3名、カウンセラー1名の小グループであったが、120年の歴史を誇る旧附属農場では、遺伝子組換え圃場、ブルーベリー栽培、コンポスト施設、シイタケ栽培、クローン牛、日本鹿などを見学すると共に、夜は自国の紹介や留学生活の話を楽しんだ。また川渡温泉での入浴、鳴子峡の紅葉狩り(雪も体験)、こけしの製作実演見学などを行なった。留学生にお肉を食べられない人がいたので夕食は留学生には珍しい農場産の野菜(大根、大長人参、牛蒡、蒟蒻、マコモタケ、春菊、シイタケ、ホドイモ、蓮根など)の実物を見ながら、日本伝統の「おでん」と「天ぷら」料理を味わった。また、朝食は農場産のブルーベリージャムとルバー

ブジャム、牛乳でのパン食を、昼食は、農場産のもち米と小豆で作った「あんこもち」と「お雑煮」、また季節限定のナガイモの「むかごご飯」で日本の食文化の一端を賞味した。

国際交流記

園芸学分野 教授 金 浜 耕 基

農学研究科の留学生と一緒に川渡の附属農場を久しぶりに訪れながら、国際的な雰囲気に入ることができたのは、私自身にとっても貴重な1泊2日の小旅行でした。恐らく留学生達にとっては初めての農場見学と思われ、原木で育ったシイタケの収穫に興味津々で、農場産の新米で作ったお餅や山菜の天ぷらなどのおもてなしに浸り、夕方には温泉入浴と、初めての日本文化の経験の連続を楽しんでいるようでした。

2日目には温泉の源泉やこけし工房の見学ドライブを楽しみ、その途中には今年の初雪の歓迎を受けて歓喜する、若さに満ちあふれた国際交流の旅でした。

ご多忙の中にも関わらず、企画から案内まで、細かい配慮の行き届いたお世話をされた交流委員長の三枝正彦教授、教務係の穴澤さん、国際交流支援室の安倍さん！大変ご苦労さまでした。

留学生の川渡フィールドサイエンスセンター施設見学～初日の緊張～

資源経済学分野 准教授 石 井 圭 一

12月1日金曜日、午後3時、農学部正門前を出発。ちょうど午後から始まった避難訓練が終わる頃でした。留学生にはこの避難訓練も珍しかったかもしれません。中庭に集まった学生たちがかわりばんこに消火器をひねると、もうもうと立ち込める白い煙で火が消されます。火事は乾燥した冬に多くなります。これに備えた避難訓練も学内で冬の訪れを感じさせる行事になっています。

施設見学には、中国のゴギョウランさん、チェンリーさん、パキスタンのアハマドさん、バングラデシュのアザドさんと、川渡のフィールドセンターで研究を進めるフィリピンのガリドさんの5人が参加しました。これからいよいよ冬が始まるぞという頃でしたので、参加の留学生も雪が降りだしそうな気配に身構えた様子でした。

川渡に着くと早速、マイクロバスに乗って藤島旅館の温泉に直行しました。東北大の学生だと告げると100円で入れます。硫黄のおいが立ち込める昔ながらの温泉でした。アハマドさんとアザドさんは初めての温泉でしたのでやや緊張気味。少し寒くて湯冷めも心配でしたが、せっかくの日本生活ですので温泉に入った経験を自分の国に持ち帰ってくれればと思います。

フィールドサイエンスセンター見学記

国際交流支援室 安 倍 愛 子

12月1日・2日と2日間にわたり、川渡にある複合生態フィールド教育研究センター(フィールドサイエンスセンター)の見学旅行に参加させていただきました。

初日に、センター内で行われている研究や施設の概要をセンター長の三枝先生より説明を受け、2日目に遺伝子組み換え植物隔離圃場やコンポスト施設、広大な椎茸の栽培場や牛の飼育場など、日頃なかなか見学する機会のない

様々な施設を見せていただき、大変勉強になりました。さらに、センター内には明治時代に建築された建物が今現在もあり、明治・大正・昭和・平成と百有余年にわたって受け継がれて来た長い研究の歴史が確かにあることが、この古い、しかし趣の感じられる木造建築物から伝わってくるようでした。

センター内見学の後は、鳴子峡や酸性湖の湯沼へも案内していただきました。鳴子峡といえば紅葉が有名ですが、この日は真っ白に雪化粧しており、紅葉とはまた違った美しい景色を堪能することができました。鳴子峡の雪景色は、参加した留学生の皆さんにとって忘れ難い日本の一風景としてぜひ記憶に残してほしいと思うほど美しいものでした。

また、センター内で採れた野菜やお米で作っていただいたおいしい食事をご馳走になり、センター関係者の皆様にも大変お世話になりました。新鮮な食材を川渡の新鮮な空気と共に先生方や留学生の皆さんと味わう機会を持た、有意義な2日間でした。



センター玄関前での記念写真



本年3月をもって、6名が大学院での研究を修了し離日しました。そのうち2名の方に在学中の思い出を綴っていただきました。

～ Life in Japan 日本での生活～



グループ情報システム学分野

タワチャイ
Thawatchai

ンガムシリ
Ngamsiri

2003年の夏、私にとって初めての異国の地である日本に来ました。降り立った成田空港で日本語を耳にし、日本人を目にしました。そして、その時思ったのです。「一体何を話しているのだろうか?」と。日本の方たちが私に話しかけてくる言葉は理解できませんでした。日本語には漢字・ひらがな・カタカナといった数多くの文字があり、極めて難解な言語です。中でも漢字はたくさんありますが、私は全てを覚えられず、日本語がなかなか理解できません。

日本語には漢字・ひらがな・カタカナといった数多くの文字があり、極めて難解な言語です。中でも漢字はたくさんありますが、私は全てを覚えられず、日本語がなかなか理解できません。

日本は美しい国です。素晴らしい街はたくさんありますが、中でも京都や東京は外国人に最も人気があります。私は京都を訪れ市内を観光しましたが、特に金閣寺は綺麗でした。日本にはとても長い歴史があるのには驚いてしまいます。私は奈良・名古屋・高知・北海道・東京・岩手など、多くの土地を訪れましたが、そういった旅ではいつも幸せな気持ちになったものです。

私の専攻はメコン川のナマズのグループ情報システム学分野についてです。メコン川には、この川固有の世界で最も大きなナマズが生息しており、とても重要な魚ですが、現在は非常に危機的な状況にあります。

在学中は幸福な日々を送ることができました。指導教官の谷口順彦先生は、問題が生じた時には助けて下さり、非常に親切にしてくださいました。また、優しくフレンドリーな日本人・外国人両方の良き友人にも恵まれました。キャンパス内で挑戦したスポーツは唯一バドミントンでしたが、このバドミントンを通してさらに友人が増えました。母

国タイでは雪が降らないので、スキーにも挑戦しました。スキーは楽しいのですが、滑るのはなかなか大変でした。

最後に、東北大学で学ぶことができ、本当に幸せです。日本の食べ物を味わい、旅をし、友人と語り、バドミントンやスキーに挑戦し、たくさんの良い思い出ができました。ぜひ、いつかまた戻ってきたいと思っています。

にほんりゅうがく かんそう
 ~日本留学の感想~



けいえいじょうほうがくぶん や シン ダイ チュウ
 経営情報学分野 秦 大 中

日本に来て留学することができたのは、きっとご縁があったのだとずっと信じております。

2000年3月に仙台の大地を踏んでからはや7年が経ちました。この間、私は日本の良好な社会的秩序や、友好的で互いに厚く信頼しあう人間関係に感心し、歴史上日本と中国との両国

間文化交流の深さもしみじみ感じるようになりました。

最も驚いたのは、孔子様が日本で予想以上に人々に尊敬されていることです。中国人として自国の歴史や思想、文化をもう一度反省すべきではないかと教わりました。

最も感動を与えてくれたのは、指導教官である工藤昭彦先生を始めとする日本の方々です。研究や生活の面で大変お世話になったことに感激したとともに、良心良識を持ち正直で立派な人間としての歩み方も教えて下さり、それは今後の私の人生に非常に貴重なものだと思います。

今後に対して最も期待しているのは、中国と日本との友好関係が不断に深まることです。互いに「理解しよう、理解を図ろう」という気持ちが必要だと思えます。

東北大学は2007年に創立100周年を迎えます。今年は下記の記念事業が開催されます。

4月4日(水)	新入生歓迎セミナー (仙台)
4月～12月	・100周年記念アマチュア無線局 (片平キャンパス・川内キャンパス・アマチュア無線部部室) / 担当: 学友会アマチュア無線部 ・100周年記念アワードの発行 (片平キャンパス・川内キャンパス・アマチュア無線部部室) / 担当: 学友会アマチュア無線部
6月22日(金)	創立記念日 学旗・学歌・スクールカラーの制定
7月28日(土)～29日(日)	100周年記念事業片平まつり (片平キャンパス・星陵キャンパス) / 担当: 片平まつり2007実行委員会
7月下旬	国際文化研究科公開国際交流プログラム / 担当: 国際文化研究科
7月～9月	100周年記念サイエンス展示 (自然史標本館) / 担当: 理学・工学・環境科学研究科他
8月20日(月)～24日(金)	100周年記念公開サイエンス講座 (理学研究科大講義室) / 担当: 理学・工学・環境科学研究科他
8月20日(月)～24日(金)	100周年記念COEアウトリーチカフェ (理学研究科グリーンホール) / 担当: 理学・工学・環境科学研究科他
8月20日(月)～31日(金)	100周年記念「東北大学・ロシア科学アカデミーシベリア支部学術交流締結15周年記念国際シンポジウム」(仙台国際センター 外) / 担当: 東北アジア研究センター

8月25日(土)～ 26日(日)	100周年記念まつり (片平キャンパス)
8月25日(土)～ 26日(日)	100周年記念茶会 (片平キャンパス) / 担当: 学友会茶道部
8月26日(日)	100周年記念祝賀会 (野外) (片平キャンパス)
8月26日(日)	100周年記念・市民コンサート (仮称) (宮城県民会館) / 担当: 100周年記念・市民コンサート (仮称) 実行委員会
8月27日(月)	100周年記念式典・懇親会 (仙台国際センター)
8月30日(木)～ 9月5日(水)	100周年記念 / 40年の時空を越えて 第8回鳴展 (せんだいメディアテーク) / 担当: 鳴展・学友会美術部
8月	農学カルチャー講座 / 担当: 農学研究科
8月	農学研究科国際シンポジウム / 担当: 農学研究科
9月1日(土)	祝賀会 (東京)
9月1日(土)～ 10月14日(日)	100周年記念展示「東北大学の至宝 - 資料が語る1世紀 -」 (江戸東京博物館)
9月7日(金)～ 9日(日)	The 6th Japanese-US Cancer Therapy Symposium & The 5th S.Takahashi Memorial International Joint Symposium (仙台エクセルホテル東急) / 担当: 病院
9月8日(土)	祝賀会 (大阪)
9月14日(金)～ 17日(月)	100周年記念事業企画展「日本における近代物理学のあけぼのと展開」 (せんだいメディアテーク) / 担当: 理学研究科
9月26日(水)～ 11月18日(日)	「特別展「夏目漱石」 - 東北大学創立100周年・江戸東京博物館開館15周年記念 -」 (江戸東京博物館)
10月5日(金)～ 7日(日)	ホームカミングデー、記念セミナー (仙台)
10月7日(日)	学友会体育部記念シンポジウム / 担当: 学友会体育部
10月7日(日)	100周年記念国際シンポジウム 「女性百年 - 教育・結婚・職業」《いかに生きたか、いかに生きるか》 / 担当: 文学・教育学・法学・経済学・国際文化研究科、東北アジア研究センター
11月2日(金)～ 12月9日(日)	100周年記念展示「東北大学の至宝 - 資料が語る1世紀 -」 (仙台市博物館)
12月14日(金)～ 15日(土)	第7回高度流体情報 / 第4回横断的流体研究融合化に関する国際シンポジウム (片平キャンパスさくらホール) / 担当: 流体科学研究所
12月	日仏学術ジョイントセミナー (東京、仙台)
未定	青春エッセイ阿部次郎記念賞 (仮称) の創設 / 担当: 文学研究科
未定	展示会「東北大学の100年 (仮称)」 担当: 史料館